

やすらぎ通信

第25号 (平成24年12月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

師走(春待月)

ペチカ

作詞 北原白秋 作曲 山田 耕筰

雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話ししましょ
昔 昔よ 燃えろよ ペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ 表は寒い
くりやくりやと 呼びますペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ じき春きます
今にやなぎも もえましょペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ だれだか来ます
お客さまでしょう うれしいペチカ

雪の降る夜は 楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ お話ししましょ
火の粉ばちばち はねろよペチカ

いよいよ今月で、今年のフィナーレ。皆さまにとって今年はいかがだったですか？「いい年だった」とおっしゃる方も、「いやそうではなかった」とおっしゃる方も、来年はいい年にしたいものですね。

人生の厳冬はいつまでも続かないもの。いつか芽を出し花を咲かせる 때가いずれ訪れます。それまで辛抱強くあせらず実力を蓄え、チャンスを待つことの大切さを若い人には是非知ってもらいたい気がします。万代池公園の桜も、夏に小枝の脇に付けた花芽（かが）をずっと抱きかかえて辛抱強く、硬い皮の下でエネルギーを蓄えて成長し、暖かくなるチャンスを待っています。もう今頃になると硬い花芽の皮の下ではおしべもめしべも花弁も形成されています。あとはただひたすら、気温が上がり飛び出るチャンスを待っているだけ。自然には学ぶことが多いですね。

さて、今月も先月に続き 12 月の季語を拾ってみました。

「顔見世・風呂吹き・神楽・消し炭・炭俵・綿入れ・火番・柚湯・春支度・餅・餅配り・注連縄・年の市・羽子板市・煤払い・畳替え・年貢納め・暦売り・社会鍋・晦日蕎麦・除夜の鐘」。本当に日本語は素晴らしいですね。これらの季語は単なる漢字の構成体ではなく、一つ一つの季語ごとに空間と時間を超えた情景が頭の中に広がります。

しかし、これら季語の中には、今では死語になり日常生活では使われなくなったものや、そうなりつつあるものも多く含まれています。

例えば「消し炭」という季語がありますが、これなどもその中に含まれるのではないのでしょうか。関西では「消し炭」というよりも「からけし」と言った方が一定の年齢以上の方には通りやすいかもしれません。しかし、若い方には「からけし」と言うとおそらく何のことか分からないという反応が返ってくるでしょう。

私が小さかった頃、家庭内で暖を取るものといったらもっぱら火鉢でした。火鉢を中心に家族が肩を寄せ合うように暮らしていました。火鉢には、やかんがつきもので、お茶を飲むのに使ったり、室内が乾燥するのを防いだりしていました。

また時には、家をついた餅やかき餅を乗せ、おやつにしたり、時にはお茶漬けの中に入れて食事時に食べたりしていました。

当時、家族も三世代同居が普通で、時には四世代同居の大家族もありました。また、その後に出た石油ストーブのように部屋全体が暖まらないため、大人も子どもも母親や祖母の作った綿入れの甚平などを外に羽織り、寒さを凌いでいました。

そのなかで、「子どもは風の子」と言われ、寒い冬空のもと、いろいろな体が暖まる遊びを子どもたちが集まってやっていました。その集団には自ずと序列が出来ていて、最年長者が遊びを仕切りました。また、ルールを守らない子がいれば、その最年長者が注意をし、子ども社会の中の秩序を保っていました。冬の遊びとしては、「お

しくらまんじゅう」「相撲」「“どうま”」「陣地取り」「” 駆逐水雷 “」が当時代表的なものでしたが、中でも、「駆逐水雷」はとても面白い遊びで、体も温まりました。

当時の子どもは、足に霜やけ、手にあかぎれというのが普通でした。これが「風の子」の勲章でした。

※私たちの時代は、「駆逐水雷」（地方により「水雷艦長」「駆逐戦艦）」のように鬼ごっこと戦争ごっこをミックスした戦前の軍国主義の時代にできた遊びが、子どもたちの世界にまだ伝承されていた時代でした。「駆逐水雷」は、グループを半分に分け、『戦艦』1名と『駆逐艦』『水雷艇』数名をそれぞれ選びます。『戦艦』は『駆逐艦』を、『駆逐艦』は『水雷艇』を、『水雷艇』は『戦艦』を撃沈（体をタッチ）させることができ、『戦艦』が沈没した方が負けというルールでした。それぞれの役割の区分が分かるように、野球帽を被り、『戦艦』は帽子のつばが前、『駆逐艦』は横、『水雷艇』は確か後ろだったように思います。戸外での遊びとしては、頭を使いながら体を動かす遊びとしては非常にうまくできた遊びで、当時の子どもにとっても人気がありました。子どもが野球帽を被らなくなった昭和40年代以降急速に姿を消したと言われています。

さて、「からけし」に話をもどしましょう。火鉢に使う炭は、焼いても形が簡単に崩れない檜や樫、くぬぎのような硬い木が使われました。しかし、例えば、夜寝るときに布団の裾に置き足から暖を取るような炭火炬燵には、あまり火力の強くない「からけし」がよく使われました。（炭火炬燵は、その後急速に火力が安定し長時間持続できる「豆炭」を使った「豆炭あんか」に取って代わられますが。）

「からけし」は、家で「おくどさん」と呼ばれた「かまど」などで使った雑木や薪が完全に燃え尽きずに残ったものを消して再利用したものでした。当時、各家庭には「消壺」と呼ばれた鑄鉄製の壺があり、燃えた残りをそのまま壺に入れ蓋を被せれば自動的に火が消え、「からけし」になりました。ただ、「からけし」は炭に比べ火力は弱く、また形が崩れやすいため煮炊きなどに使うには不適で、もっぱらこたつや火鉢の火起こし用の火種などに使われていました。

この「からけし」になる雑木や薪の供給源は、家で作っている果樹などの枝打ちをした枯れ木や里山の剪定などで切り出した薪などでした。「里山の手入れ」「煮炊き用などの燃料」「からけし（消し炭）としての再利用」というように、自然資源はすべてが無駄なく使われていた時代でした。

もう一つ季語を取り上げてみましょう。「注連縄（しめなわ）」です。これは、まだ死語ではありませんが、「注連縄づくり」となるとどうでしょうか。今では、正月前に個々の農家が注連縄を編んでいる姿は完全に消えてしまいましたが、昭和30年代までは、それぞれお手製の注連縄を作っていました。私の家でもそうでした。私が小学生高学年になった頃でした。ある日、父から「お前も一度自分で編んでみるか」と

言われ、注連縄づくりを教わりました。(※本当は縄を縫(よ)ると言います。稲わら文化の消滅とともにこの言葉も死語になるかもしれませんね。)

刈り取ったばかりの何束かの稲わらを用意し、そこから編み上げる分だけの稲わらを抜き取り、まず、稲わらの裾の余分なわらを払いのけます。残ったしっかりとした部分を三分割し、この分割したわらをそれぞれ縄に編み上げながら、出来ていく縄を三つ編みにからませて注連縄に作り上げていくのです。しかし、理屈は頭で分かっても、生まれつき不器用な私にとって、とても難しい作業でした。いくらやっても、縄が編めないのです。父は目の前で、手のひらに唾を着けながら魔術師のようにあれよあれよと編んで行き、中央部には注連飾りの垂れまで付けるのです。私は、何度かやり直した後、ようやくそれらしきものが出来上がりましたが、とうていお正月に軒先に飾れるようなものにはなりませんでした。

※我が家では毎年、暮れになると父による注連縄づくりが恒例行事でした。父は出来上がった注連縄に裏白だけを括り付けて飾っていました。しかし、本当は注連縄で一番重要なのは、紙垂(「しで」と読み、「四手」とも書きます。)で、神道理論から言うと、私の父が省略した紙垂のない注連縄は何の役にも立たないということになります。注連縄を飾る意味は、神のいる聖域と現世を隔てる結界を意味し、注連縄の内側に厄や災いをもたらす邪悪を追い払うということになります。それは、この紙垂は神垂の意であり、「神の手」であることから来ると言われています。四手も当て字ですが、降臨した「4神の手」の意味で当て字になっているのではないかと思います。

また、注連縄の材料は、刈り取る前の稲穂がかすかに出たばかりの青い稲を乾かして作るのが本来だとされていますが、いずれにしましても稲が使われるのは、古神道の時代から稲作信仰が神道の根幹をなすからです。神は人間の命を司り、その命はコメによって保たれるという関係から、稲作が神道の信仰対象になりました。小さかった頃、ご飯を残すと「神さんから罰があたる」ということをよく言われましたが、その語源はここにあります。

それから20年ほど経ち、小学校の父親参観の時に、父子で注連縄づくりにチャレンジするイベントがあり、この時にはこの経験が生き、少しばかり父親の権威を上げることができました。

ところで、今日の売られている注連縄は大変立派で見栄えがしますが、昔の手作りの注連縄には、それぞれの作り手の家族への愛情がこもっているようで、素朴に見えとても暖かみを感じさせてくれました。

わずか二字か三字の短い言葉が、空間的、時間的制約を飛び越えて、自由に過去や未来の世界に導いてくれる日本語は本当に素晴らしく、またこれ自身が日本の誇るべき文化そのものではないでしょうか。

こうした、日本文化の凝縮した結晶としての季語を、私たちは消え絶えさせるのではなく、未来の世代にも心のバトンタッチで、是非、残していきたいものだと思います。

す。



さて、今年の最大の話題と言えば、ロンドンオリンピックとパラリンピックが開かれたことではないでしょうか。

オリンピック期間中は、水泳や体操やサッカーなどでの日本選手の活躍により、多くの日本人は夏の「眠れぬ夜」を過ごしました。

しかし、オリンピックの実際の競技では、少なからぬ問題も発生しました。例えば、日本選手が出場した男子サッカーの3位決定戦で、終了後韓国の選手が「『独島』は韓国の領土だ」と書かれたボードを持ち、グラウンドを周回したことは、オリンピック憲章との関係で大きな問題となりました。また、ツイッターにより、サッカーのスイス代表選手が予選で敗れた韓国選手に対し、またギリシアの女子三段跳び選手がアフリカ選手に対し、それぞれ Racism (人種差別) に通じる発言を行いました。さらに、女子バドミントンの一次リーグでは、中国、韓国、インドネシアの選手が自国のチームが決勝トーナメントで有利な戦いをできるように「意図的に手抜きプレイ」する事件も発生しました。これらは、オリンピックの原点であるオリンピック憲章を十分選手が理解していないことから起因している行為と言えましょう。

ところで、日本ではオリンピックをどのように受け止められているのでしょうか。

オリンピックの商業化が言われて久しくなりますが、オリンピックがショービジネス化し、巨額な放送利権の対象となり、他のスポンサー企業などの投資の対象となることにより、巨額のマネーが動くようになっていきます。そのために、それを回収するために、多くの観客を会場に引きつけ、多くの人達をテレビやラジオにくぎ付けにし、多くの協賛グッズを販売することが求められます。そのために、今やオリンピックビジネスを支えているキラーコンテンツは「金、銀、銅」とりわけ「金」メダルの獲得競争だと言っても言い過ぎではありません。テレビも新聞も、メディアはゲームの前に有力選手一人一人のメダル獲得の予想を行い、決意をインタビューし、親兄弟や地域の人達、学生時代の恩師たちにインタビューし、普段のトレーニングや日常生活、学生時代のエピソードなど詳細に伝え視聴者や読者の関心、熱気を高めていきます。そして、試合ともなると数日前から報道はヒートアップし、試合当日には最高潮に達します。LIVE 映像でその選手の活躍の様子が現地から放映されます。試合の時間も、最も国際オリンピック委員会にお金で貢献する国での放映時間を考慮して設定されます。そして金メダルを獲得した瞬間から、最高に報道はエキサイトし、新たなヒーロー物語がその瞬間から作り上げられるのです。

メダリストたちは、帰国後も、マスメディアの前に連日のごとく登場し、彼ら自身の経済的価値を高めていくこととなり、幾人かはその後はスポーツ解説者やテレビのコメンテーターなどとして転出したり、企業と専属の広告契約を結んだりして新たな収入源を獲得していきます。

かつて、こうした商業主義や過熱するメダル至上主義に対して、強い違和感を感じ、マスメディアに向かって自分の主張を堂々と述べた選手がいました。水泳のメダル期待の有力選手でしたが、結果はメダルは取れませんでした。競技が終わった翌日だったと思いますが、彼女はある報道番組に現地からLIVE映像で出演し、インタビューを受けました。その中で、彼女はメダルを取れなかった気持ちを聞かれて「私は、オリンピックを楽しもうと思ってこの地に来ました。その通りにオリンピックを楽しむことが出来てとても満足しています。」とのみ答えました。しかし、それはインタビュアーが期待していた答えではなかったため、「悔しいとかそんな気持ちはないですか」と改めて尋ねました。すると彼女は「悔しいという気持ちはありません。先ほどもお答えしましたように、オリンピックを思う存分楽しんで来ようと思いここにやってきたし、結果としては、それが実現出来たので、とても満足をしています。」

何とかメダルを取れなかった悔しさを答えとして引き出したいインタビュアーは、執拗に食い下がったため、ついに彼女は怒りだし「日本人のメダル至上主義が異常だ」という趣旨のことを言って、インタビューは終わりました。

放送は、それで終わりましたが、彼女の受難はそこから始まったのです。その直後からテレビのワイドショー、スポーツ新聞、週刊誌でのバッシングが始まったのです。それから以降、彼女はこの問題には貝のように口を閉じ、表舞台から姿を消しました。

こういうことがあってからもうどれくらい経ったのでしょうか。彼女が批判した日本のメダル至上主義は少しでも和らいだかといえば。答えはNOです。オリンピックの商業化はますます進み、そのキーコンテンツである「金、銀、銅」をめぐる競争はスポーツ界のみならず関連する企業全体を巻き込んでますますヒートアップしています。

ところで、こうした傾向や彼女の批判をオリンピックの原点に照らしてどのように考えたらよいのでしょうか。

オリンピックは本来「オリンピック・ムーブメント」という言葉で表されるように、単なる国際的なスポーツ競技大会ではなく、地球上に住む全ての人々を対象にした一つの大きな目的を持った社会運動なのです。

このオリンピック・ムーブメントの精神を文字で書き記したものがオリンピック憲章であり、2007年版のオリンピック憲章には、オリンピックを明確に次のように定義づけています。

「オリンピズムの目標は、スポーツを人間の調和のとれた発達に役立てることにある。その目的は、人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある。」と記しています。そしてまた、

「オリンピズムは、肉体と意志と知性の資質を高揚させ、均衡のとれた全人のなかにこれを結合させることをさせることを目指す人生哲学である。」

「文化や教育とスポーツを一体にし、努力のうちに見出されるよろこび、よい手本となる教育的価値、普遍的・基本的倫理的諸原則の尊重などをもとにした生き方の創造である。」

「オリンピック・ムーブメントの目的は、いかなる差別をともしないことなく、友情、連帯、フェアプレーの精神をもって相互に理解しあうオリンピック精神に基づいて行われるスポーツを通して、(略) 平和でよりよい世界をつくることに貢献することにある。」

クーベルタン男爵により提唱され、発展してきたオリンピック・ムーブメントの崇高な理念がここに記されています。メダルは競技において優秀な成績を収めた選手個人を讃えて授与されますが、オリンピックの目的は決してメダルの獲得を目指すところにはないのです。

ところで、このオリンピック精神について未だ鮮明に記憶に残るのは、1998年の長野オリンピックにおける当時のサマランチ IOC 会長の開会挨拶です。少し長いですが当時の信濃毎日新聞の記事から引用しましょう。

「国際オリンピック委員会、国際冬季競技連盟、各国オリンピック委員会を代表して、日本の皆さま、世界中のテレビをご覧の皆さまにご挨拶を申し上げます。

世界人権宣言 50 周年という記念すべき年に、第 18 回オリンピック冬季競技大会が開催されます。

国際連合加盟国 185 か国がオリンピック停戦を呼びかけたことにより、あらゆる紛争の恒久的解決を目指す国際間の対話が促進され、人類の悲劇に終止符が打たれることが私たちの願いです。

未来は真に若者たちに委ねられています。彼らのために、平和でよりよい世界とともに築きあげましょう。すべての人々に、敬意、尊厳、寛容、結束という価値観に基づくスポーツとオリンピック理念を通じた教育を提供できるように努めましょう。」

当時は、旧ユーゴスラビアの解体に端を発した内戦やボスニア・ヘルツェゴビナ紛争がようやく終了したものの、チェチェン紛争、コソボ紛争、東チモール紛争、コンゴ内戦などたて続けに悲惨な紛争が起こり、多くの人命が失われ、中でも子どもや女性が真っ先に犠牲となっていく事態が世界各地で起こっていました。それだけに、オリンピックへの期待も大きく、国連もオリンピックの趣旨を体し、開催 1 年前には「オ

オリンピック期間中の「停戦決議」を採択するのを常としていました。サマランチ会長の挨拶もオリンピック・ムーブメントの精神を踏まえ、こうした国際情勢を背景に行われたものです。サマランチ氏は、オリンピックに商業主義を持ち込んだ張本人との批判をその後受けますが、この長野オリンピックにおける挨拶は、オリンピックの何たるかを語った、後世にも語り継がれるべき名演説だと評価されています。

サマランチ会長の挨拶のなかにもありましたように、1998年は第二次大戦の反省のもとで「人権の確立なくして平和はない。また平和の実現なくして人権はない。」との加盟国の決意のもとで、国連総会で世界人権宣言が高らかに採択されてちょうど50年の節目の年でもありました。世界人権宣言は、ルーズベルト大統領の夫人であったエレノア・ルーズベルトの尽力により、1948年12月10日にパリのシャイヨ宮殿で開催された第3回国連総会で「人権、自由を尊重し確保するために、すべての人民と全ての国が達成すべき基準」として採択されました。この時、エレノアは国連人権委員会を代表し、「すべて人は生まれながらにして自由であり、平等である……」と高らかに宣言を読み上げ提案しました。エレノアはその後自分の一生を国際平和と人権の確立のため捧げ、アメリカでは、今日もなお、人道主義に一生をささげた人物として最も尊敬されている女性の一人だと言われています。

サマランチ会長は、オリンピック精神のベースに、この世界人権宣言があることを「世界人権宣言が採択されて50年目に当たる年に開催される」という表現で再確認したのでした。

このようなオリンピック精神から判断しますと、テレビのインタビューに「(オリンピックを通じ世界の選手と交流し、知り合うことなどにより) オリンピックを楽しむためにこの地にやってきた」と答えた水泳選手と、執拗にメダルを取れなかった感想を求めるテレビ局の姿勢とのどちらがオリンピック精神にかなっているかは自明のことだと思います。

そもそもオリンピックの精神は、長い歴史を持つ個人主義と人権主義に根差したヨーロッパ的価値観がベースになって築かれたものであり、60数年前までは、封建的な儒教的価値観のもとで暮らしてきた私たち日本人にとっては、まだまだ馴染みにくいものがあります。しかし、世界的にはこうした価値観が一貫したグローバルスタンダードであり、私たち日本人も自らの持つ良い伝統的価値観、精神を受け継ぎながらも、世界のグローバルな価値観もうまく吸収・消化し、「大人の先進国」の市民として世界の人たちとまた大自然とも、この狭い地球の上で共にうまく暮らしていくことが大切ではないかと思いますが、皆さま方いかがでしょうか。



毎年ご好評いただいています二つの連携事業、「生と死を、今考えるⅢ」(相愛大学・森ノ宮医療大学)、「糖尿病予防セミナー」(相愛大学)が、今年も多くの方々のご参加により終えることができました。

「生と死を、今考えるⅢ」につきましては、10月20日に開催し、定員200人を大幅に上回る225人の参加者で、講堂は超満員となりました。

今年のテーマは「“疫を免じる”—がんと免疫の力」と題して、基調講演者に大阪大学大学院医学系研究科杉山治夫教授をお迎えし、「WT1 がん免疫療法の最新の成果」についてお話をいただき、関連講演では当センター谷尾吉郎医務局長から「がん治療における免疫力」についてお話をいただきました。

杉山先生からは、未発表の超最新の成果も入れて、多くのがんに特異的に発現するWT1をターゲットにしたがん免疫療法の治療のメカニズムや効果等について分かりやすくご説明いただきました。その中で、杉山先生は、「免疫療法においては、がん細胞を攻撃する樹状細胞等にふりかける抗原として何を使うかが決め手だ。WT1は、血液がん、固形がんを問わず、ほぼすべてのがんで特異的に発現しており、抗原としては最適であることが分かっている。WT1ペプチドを外部から皮下注射で計画的に体内に入れることにより、effector T細胞の増殖と活性化を促し、WT1が一つの「表札」となりWT1を発現しているがん細胞を目掛けてT細胞が集中的に攻撃する、これがこの治療法のメカニズムである。そして、これまで、多くの血液がん、固形がんの末期ステージの患者さんを対象に、わが国だけでなくドイツなどの外国の大学病院でも、臨床試験を積み重ねてきて、数々の顕著な治療効果が確かめられてきた。

WT1を入れることにより、がんが消失する、小さくなる、大きくなるのが止まるなどの何らかの効き目があったとされる症例が多く報告されている。この症例のように、CT画像ではがんが残っているように見えるが、PETで撮るとがんが消失しているのが分かる。その結果、末期がんと診断された患者さんが5年も7年も生存されている。免疫機能が維持されている患者さんについては、ほぼ100%WT1が効くという証明ができるところまで来ている。しかし、逆に言えば、これまでの薬剤の投与等で免疫力の低下を来している症例には効かないことになる。ただ、効くケースと効かないケースの判定ができるところまで来ている」と話されました。

また、従来免疫療法についてはevidenceが問題と言われていましたが、杉山先生はこれまでの研究で多くのevidenceを蓄積され、それに基づき現在、2グループ3企業により、治験が行われている段階にまで進んできたこと、また、アメリカでは、このWT1がん免疫療法は多くの免疫療法を押しよけて、今日世界で最も高い治療効果のある免疫療法として第一位で評価されていることなどを紹介されるとともに、今後は早期がんの患者にも外科手術や抗がん剤治療と併用することでより効果的な治療を行うことが出来ること、またご自身のこれからの研究テーマはWT1を用いた

がんの予防ワクチンを開発することだと抱負を述べられました。

続く関連講演では当センターの谷尾医務局長が、現在の肺がん治療の状況を解説し、そのなかで、「肺がんの内科的治療の分野では、現在分子標的薬を用いた抗がん剤治療が主流になりつつあるが、免疫療法はまだワン・オブ・ゼムの位置づけにしかない。しかし、杉山先生の WT1 がん免疫療法の成果などにより、それが主役の一つに躍り出るかはどうか今後注目されるところだ。また、実際の肺がんの臨床事例で、稀な例であるが、がんの自然治癒というケースがあり、それには間違いなく免疫が働いていることが推測される。また、杉山先生の WT1 がん免疫療法は、effector T 細胞の効果をフルに引き出し、増強してがん細胞を殺す治療法だが、他方、同じ T 細胞の中には免疫機能を抑制する機能を持つ制御性 T 細胞があり、免疫の機序の中で effector T 細胞に負けず劣らず大きな位置を占めている。この分野では、坂口志文大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授が先駆的な研究を行い、制御性 T 細胞の効果の発現を抑制することにより、免疫力を高め、がん治療に役立てようとする研究が行われている。この面からのがん治療への臨床活用も今後注目されている」と話しました。

後半は、こうしたがん治療に真正面から焦点を当てた前半とは異なり、がらっと雰囲気を変えたパネルディスカッションとなりました。テーマは「免疫と健康—笑いは健康の原点」、しかも、笑福亭松喬師匠の落語「犬の目」から始まるというユニークなディスカッションで会場は大いに笑いのうずには包まれました。しかし、落語の冒頭、末期がんと宣告されて以来の松喬師匠の闘病生活のお話しには参加者全員が引き込まれ、明るく前向きにがんと闘っておられる松喬さんのお人柄や精神力に会場全体が感嘆と松喬さんへのエールの気持ちで包まれました。

ディスカッションでは、釈徹宗相愛大学人文学部教授のコーディネートのもと、相愛大学人間発達学部の浅田章教授、青木元邦森ノ宮医療大学保健医療学部教授、山田義美当センターがん患者会ひまわりの会会長と松喬師匠、谷尾医務局長の 5 人のパネラーでディスカッションを行っていただきました。

浅田、青木両先生からの笑いが健康に及ぼす様々なよい効果についての専門的なお話のあと、松喬師匠からは「笑いはいいことばかりで、私も落語を話して皆さん方からの笑いをもらって元気をいただいています。だから皆さん方もできるだけライブの落語を聞きに行つて免疫を活性化させて下さい。笑いで副作用、あんまり考えられませんか。おもろない落語を聞くと副作用が出るかもしれませんが。だから上手な落語を聞きに行つて下さい。」と笑いを取りながら話されました。また、山田さんからは、ひまわりの会の活動は、月 2 回患者や家族が集まり、とにかく「ワァーッと気持ちをはき出し」、「ワァーッと泣いて」、「ワァーッと笑って帰る」という活動をしていること、また、落語などの笑いは今の活動には取り入れていないけれど、今後は是非取り入れて行きたいとのお話がありました。

絶妙な進行でパネラーのお話しを引き出していただいた釈徹宗先生に最後は、「社会全体が様々なひずみにより脆弱化しているなかで、人間や生命などについて一人一人がそのありかたを考えることがとても大切になっている。そういう点でこのシンポジウムは、その考える契機を皆さん方に提供している、ここにこのシンポジウムの意

義があるのではないでしょうか。」と、重みのある言葉で締めくくっていただきました。

シンポジウムはこれで一応3回という区切りの年となりましたが、アンケートでは来年も是非続けて欲しいというお声もたくさん寄せられておりますので、そのご要望にお応えできるよう構想を温めていきたいと思っております。

また、11月10日に開催されました第3回目となる糖尿病予防セミナーも103人という多くの方にご参加いただきました。

当日は、当センター馬屋原豊糖尿病代謝内科部長などの講義と、相愛大学人間発達学部発達栄養学科の先生方と学生(3年生)36人による体験コーナー・学生手作りパネル展示等により、糖尿病でない方も、糖尿病の方もともに楽しく、また真剣に食生活や運動などに学んでいただきました。

この催しも、今後とも連携事業として継続、発展させていきたいと考えております。

最後に、この二つの催しを成功に導いて下さった関係者の皆様にあつくお礼を申し上げますとともに、読者の皆様には来年の企画に是非ご期待いただきまして、また多くのご参加をいただければと思います。

NEWS

【(新) 小児消化器病・肝臓病のお子様の健やかな成長を支援しますー小児科】

当センター小児科では、消化器病・肝臓病の治療に積極的に取り組んでいます。特に炎症性腸炎疾患(IBD)・ウイルス肝炎については「小児消化器チーム」として専門診療を行っています。炎症性腸疾患は原因不明の慢性疾患であり、最近我が国の子どもでも増加しています。当小児科ではステロイド静注療法やステロイドパルス療法に加えて、白血球除去療法、免疫抑制療法(イムラン、タクロリムス)を取り入れた治療を行っています。治療の進歩によって入院回数と日数は大幅に減少し、初回の寛解導入の期間を除けば、おもに外来治療で寛解を維持できております。このことにより患者さんの日常生活や学校生活も大きく改善しております。とくに今年から難治性あるいは重症の潰瘍性大腸炎・クローン病のお子様を対象に、インフリキシマブ(商品名:レミケード)の治療を開始しました。従来の治療では良くならない炎症性腸疾患(IBD)のお子様でも劇的に良くなる方を経験しております。レミケードの治療の実際については、小児科主任部長などに遠慮なくお問い合わせください。

肝臓病ではウイルス肝炎(B型、C型)、自己免疫性肝炎、脂肪肝、脂肪肝炎、硬化性胆管炎、糖原病、ウイルソン病、原因不明の肝疾患などの診療を行っています。

とくにB型肝炎およびC型肝炎のインターフェロン治療(注射薬)、核酸アナログ治療(経口薬)に積極的に取り組んでいます。治療の進歩によってB型肝炎、C型肝炎ともほとんどのお子様において肝炎が良くなっております。

治療に難渋されている潰瘍性大腸炎・クローン病などの消化器病およびウイルス肝炎などの肝臓病に関してはどうぞお気軽にご相談下さい。

【(継)臨床研究の新たな発展をめざし—臨床研究部を設置しました】

当センターでは、新たな医薬品、医療機器、治療方法などの開発を行うための臨床研究をこれまで以上に推進するため、このたび、新たに院長直属の「臨床研究部」を設置し、11の研究部門、1の臨床研究室(実験)でスタートしました。臨床研究部は、来年4月には「臨床研究センター」に発展させる予定です。各研究部門の概要は以下の通りです。

第1研究部門(がん)、第2研究部門(腎・心・血管・肺)、第3研究部門(代謝・消化器)、第4研究部門(精神・脳・神経・麻酔)、第5研究部門(免疫・アレルギー・移植・感染)、第6研究部門(救急・小児・周産期)、第7研究部門(運動器)、第8研究部門(生体画像・検査医学)、第9研究部門(薬学)。第10研究部門(看護学)、第11研究部門(医療疫学、医療情報)、臨床研究室(実験)

【(継)先月からPET-CTによるがん検診を開始しました—画像診断科】

—低被ばく・短時間撮像で高画質。快適な検査環境と高い診断精度で皆様方にご満足いただけることと確信しております。—

PET-CT検査につきましては、これまでは、がんが見つかった患者さん、がんの疑いのある患者さんを対象として、精査のための検査を行って参りましたが、11月1日から、地域の医療機関からのご紹介を条件に、がんの疑いのある患者さんだけでなく、広くがん検診を目的とした検査も実施しています。

当センターのPET-CT装置は、国内で5台目のTOF(Time-of-Flight)技術を用いた世界最高水準のもので、ノイズの少ないクリアで高品質な画像を得ることができます。

一度に全身(頭部から大腿部)のFDG-PETがん検診とCT検診を受診できます。診断は全て放射線診断専門医・PET診断認定医が行います。

検査室のインテリアや照明は、落ち着いたくつろいだ雰囲気です。安心して検査を受けていただけるよう工夫をこらしております。

検診のご利用料金は、98,000円(税込)です。是非、皆さんの健康管理にご活用下さい。

また、引き続きがんが見つかった患者さん、がんが疑われる患者さんの地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けておりますので、こちらの方も積極的にご活用下さい。

お問い合わせは画像診断科 RI(核医学)・PET検査室まで。

【(継) 進む！放射線治療装置を活用したがんの低侵襲治療—放射線治療科—】

当センターの放射線治療装置を一新して2年目に入っております。この期間に脳・肺・肝に対する定位照射、前立腺IMRT(強度変調放射線治療)を順次開始し、今年4月からは頭頸部腫瘍に対するIMRTも開始しました。画像誘導技術を用いた低侵

襲治療が可能で、脳定位照射などいずれも外来通院で治療は完結できます。

現在では高精度治療は初診から数週間程度で、待機可能な前立腺癌に対する IMRT でも 3 ヶ月待ち程度で受けて頂くことが可能となっています。

また、小線源治療（高線量率遠隔治療および前立腺癌に対する低線量率ヨード線源永久挿入療法）も行っています。

放射線治療装置を用いたがん低侵襲治療に関しては、お気軽にご相談ください。

放射線治療科 部長 島本 茂利まで

【(継)前立腺がんの手術—内視鏡手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”による手術を他施設に先駆けて本格実施中！】

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきています。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適応され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきています。

当科では 2009 年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010 年に施設認定を取得し 2011 年は 69 例の前立腺がん手術のうち 36 例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を 5~6 箇所開けて直径 5~12mm のトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は 10 日から 2 週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となったため、当センターでは府内の他施設に先駆けて、手術支援ロボット「da Vinci S」(ダ・ヴィンチ)を導入・活用し、前立腺がんの内視鏡手術を行っています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された 3 次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に係する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された 3 次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮少され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が活かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減も期待できます。

【(継)「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話で

ご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

新たに開設！ 06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター 11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の 11 診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201 (代表) にダイヤルして

「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科

免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科

神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継) 入院治療費の概算に加え、新たに外来での検査費用の概算を予めお知らせするサービスを始めました。】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、11月1日から、新たに、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスを開始しました。

今月の催し

【(新) 府民公開講座— 肺がんが心配な時には —】

生涯で、がんにかかる可能性は、男性は2人に1人、女性は3人に1人と言われて
います。その中で肺がんの患者さんは年々増加傾向にあります。

肺がんを疑うのはどんな症状があるときか？

肺がんの可能性があるときは、どんな検査をするのか？

どんな治療法があるのか？

みなさんと一緒に考えます。

日 時 12月8日(土) 午後1時30分～3時

場 所 本館3階 講堂

講 師 呼吸器内科主任部長 上野 清伸

(定員100名、参加無料)

【(新) 今月のすこやかセミナー】

知らないうちに進行する怖い病気—大動脈瘤のお話し

日 時 12月13日(木) 午後2時～3時

場 所 本館3階保健教室

講 師 心臓血管外科 診療主任 竹内 麦穂

(参加無料)

【(新) 大好評！！】

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する！糖尿病の付き合いかた～】

日 時 12月18日(火) 午後2時～3時30分

場 所 本館1階アトリウム

内 容 「糖尿病第6の合併症」

糖尿病代謝内科 医長 畑崎 聖弘

「糖尿病の運動療法～お家でできる簡単運動～」

リハビリテーション科理学療法士 谷口 知美

「年末・年始対策」

栄養管理室 管理栄養士

笠井 香織

【(新) 第22回相愛大学連携コンサート】

～ 病院に素敵な5人のサンタがやってきた ～

日 時 12月20日(木) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 相愛金管五重奏「Growing」

トランペット	中村 駿介 (4回生)
	立石 史樹 (3回生)
ホルン	作田 進悟 (4回生)
トロンボーン	山田 貴之 (4回生)
チューバ	濱崎 誉人 (卒業生 相愛オーケストラ補助員)

(参加無料)

【(新) 第8回病院ギャラリー企画展】

—昭和の巨人・グラフィックデザイナー 田中一光の世界—

戦後から昭和が幕を閉じるまでの期間、日本のグラフィックデザイナーの絶えずトップランナーを突っ走った田中一光。その鋭い感性で、未来を鋭くキャッチし、広告やポスターデザインに取り入れ時代を先導した姿に、多くのフォロワー達が胸を熱くし、今もなお彼の姿を追いかけている。

今回は、大阪を中心に活躍した、我が国のグラフィックデザイナーの巨匠が残したポスター作品の数々の中から、我が国の経済が絶頂期にあった大阪万博以降の作品を取り上げて時代をともにたどります。

本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。

日 時 平成 24 年 12 月 25 日(火)～平成 25 年 4 月 19 日(金)

(午前 9 時～午後 5 時 30 分)

場 所 本館 2 階 現代美術空間 病院ギャラリー

展示作品リスト

- ① 1973 年 日本の選択 (毎日、日本研究賞論文募集、新聞広告)
- ② " 上方芸の会
- ③ " サンケイ観世能
- ④ " 演劇「探偵」(劇団四季 西武劇場)
- ⑤ " 結城 人形座公演
- ⑥ 1974 年 池坊専永展
- ⑦ " 演劇「桜の園」(チェーホフ作、劇団民藝、西武劇場、東京)
- ⑧ 1976 年 Music Today “76
- ⑨ 1977 年 Hanae Mori
- ⑩ " 曼荼羅展 1977
- ⑪ " JAPAN STYLE
- ⑫ 1979 年 ゆめつづれ
- ⑬ 1981 年 マルシエル・テュシヤン展
- ⑭ 1982 年 緑と人
- ⑮ " 草月：創造の空間展
- ⑯ " 多彩な食卓：House Food
- ⑰ 1983 年 サンケイ観世能

- ⑱ 1984年 ヨーセフ・ボイス展
- ⑲ 1985年 Music Today “85
- ⑳ 〃 中村宗哲歴代展
- ㉑ 〃 イサム・ノグチ展
- ㉒ 1986年 Japan
- ㉓ 〃 オープン 銀座セゾン劇場
- ㉔ 〃 カルメンの悲劇
- ㉕ 〃 チャオ・イタリア
- ㉖ 1988年 Street
- ㉗ 1989年 セゾン美術館
- ㉘ 1990年 グラフィックデザインの今日
- ㉙ 〃 三宅一生展 TEN SEN MEN
- ㊱ 1991年 CANADA”91
- ㊲ 1993年 文字の演技力
- ㊳ 1996年 人間と文字—エルトリア
- ㊴ 〃 In Search of Elegance
- ㊵ 〃 モリサワ フォント (A)
- ㊶ 〃 New Japanese Graphics 以上 35 作品

【(新) 今年も行います！「ふれあい病院探検隊」】

昨年度、大好評をはくしました「ふれあい病院探検隊」。未来の医師、看護師、薬剤師、診療 X 線技師、臨床検査技師、PT/OT/ST、医療事務などを目指して府内の高校 1・2 年生に、実際に病院の仕事を模擬体験していただくイベントです。

開催日 平成 25 年 1 月 13 日 (日) 午前 10 時～午後 4 時

対 象 府内の高校 1・2 年生 (先着 500 人)

場 所 当センター内

参加者募集期間 11 月 12 日 (月) ～12 月 10 日 (月)

申込み (専用 FAX) 06-6606-7070 (行事案内チラシに付いている申込書
に必要事項を記載してお送りください。)

または、当センターホームページからお申込みできます。

お問合せ (専用 TEL) 06-6692-2222(午前 9 時～午後 7 時)

または、tanken@gh.opho.jp

(ご協力) 相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪府立大学

【(予告) 第 11 回万代・夢寄席一玉之助の“新春太神楽”でお正月を一】

～前回初登場し、大好評を博した豊来家玉之助。天満天神繁盛亭仕込みの

おめでたい太神楽曲芸で、新しい年の福の訪れを願います！～

日 時 平成 25 年 1 月 10 日 (木) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階講堂

出 演 豊来家 玉之助

主 催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(予告) 第 12 回万代・夢寄席—三代目桂春団治一門会—】

日 時 平成 25 年 2 月 12 日 (火) 午後 2 時～

場 所 本館 3 階講堂

出 演 桂 梅團治

桂 紋四郎

主 催 万代やすらぎ亭

協 力 三代目桂春団治師匠を囲む会

(入場無料)

Topics

【(新) やすらぎのプロムナードで秋の訪れをキャッチ—北側通路周辺—】

12 月に入り、プロムナードは晩秋から初冬の佇まいに変化をとげる時期を迎えました。満天星ツツジの美しい紅葉もいよいよ終末を迎え、枝から零れ落ちた木々の葉は、一旦、地にかえり、春までしばらくの休眠に入ります。しかし、春に葉や花をつける枝には、しっかりと多くの葉芽や花芽をつけ春の出番を待っています。硬い芽鱗(がりん)の下では、春に向け着実に木々の命がエネルギーを蓄えています。

小春日和には、冬の葉の落ちた木々の葉芽や花芽を観察しながら、春になれば、どのような葉や花をつけるのか想像して楽しむというのはいかがでしょうか。

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラスト(旧NIC)の窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 外来会計担当 結城穂美さんの巻】

結城「私は外来会計を担当しています。医療機関で働くのは初めてで、最初のころは、目の前のしなければならぬことに必死で、まわりを見る余裕などありませんでした。

しばらくして仕事にも少し慣れてきたころ、患者さんからいただいた『ありがとう』の一言で、自分が自然と笑顔になっていることに気がつきました。それまでは『お大事になさってください』とか『お気をつけてお帰りください』という言葉が事務的にしか言えませんでした。

しかし、患者さんの笑顔と『ありがとう』の一言で、『お大事になさってください』の言葉が自然と、自分の言葉として出てくるようになりました。

『ありがとう』のたった一言がこんなにすごい力を持っているとは、病院で働いていなければ気づけなかったと思います。これからは、どんな時でも笑顔を忘れず、頑張っていこうと思います。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。